

心的外傷後ストレス障害 (PTSD) 患者への SSRI (選択的セロトニン再取り込み阻害剤) の 処方にあたって

- ① PTSD の診断は、DSM* 等の適切な診断基準に基づき慎重に実施し、基準を満たす場合にのみ投与してください。

* DSM : American Psychiatric Association (米国精神医学会) の Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders (精神疾患の診断・統計マニュアル) (添付文書「効能・効果に関連する使用上の注意」より)

- ② 適切な対応をとっても症状が改善しない場合や、リスクが高いと判断された場合には速やかに PTSD の治療経験が豊富な専門医に紹介してください。

参考資料

『心的外傷後ストレス障害 (監修：なんば・ながたメンタルクリニック 院長 永田利彦先生；2GE--625A-)』

- ③ PTSD の症状の持続期間は様々であり、12ヶ月以上症状が残存する患者が存在する一方で、PTSD 患者の約半数が発症後3ヶ月以内に回復に至るとされていること (DSM-5; 「精神疾患の診断・統計マニュアル (第5版)」) から、PTSD 患者においては、症状の経過を十分に観察し、本剤を漫然と投与しないよう、定期的に本剤の投与継続の要否について検討してください。

(添付文書「用法・用量に関連する使用上の注意」より)